

Weekly Report

2023-24



世界に希望を生み出そう

創立 / 1965年6月25日
 例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~
 会場 / 江南商工会館1F大ホール
 江南市古知野町小金112
 0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館別館1F
 TEL / 0587-55-6554
 FAX / 0587-59-7720
 URL / <http://www.konan-rc.com/>
 Mail / konanrc@beach.ocn.ne.jp
 会長 / 富田清孝 幹事 / 木本寛 会報委員長 / 山崎博征



**2024年(令和6年)2月25日(日) 雨 第2790回(当年度第24回)例会
 東尾張分区インターシティ・ミーティング(ヒルトン名古屋)**



点鐘 東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英様
 司会 名古屋城北RC 花井 善崇様
 国歌斉唱 「君が代」
 ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」
 開会のことば



IM実行委員長 竹内 淑江様
 皆様、こんにちは。名古屋城北ロータリークラブ IM
 実行委員長の竹内淑江でございます。

本日は、酒井法丈ガバナーをはじめ、地区関係者の皆様、加藤陽一パストガバナー、伊藤靖祐パストガバナー、他地区からも2名様、そして東尾張分区会員の多数の皆様にご登録ご参加頂きまして、誠にありがとうございました。お天気もあまりよろしくない中ではございましたが、皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。お天気が悪く、皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。お天気が悪く、皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

さて今年度、名古屋城北ロータリークラブは

『温故知新』～原点を見つめ 未来に羽ばたく～

をテーマとしてインターシティ・ミーティングを開催させて頂きました。

進化し続けるすべてのもの、それらは決してロータリーの中だけではなく、私達を取り巻くすべての社会・環境でも同じことが言えるわけです。古き良き時代を振り返りそしてそれらを進化させ、いかに活用していくか。

例えば本日の私の装いは、日本古来の着物の文化がやがて活動的な女性の装いとして明治、大正時代に袴を身に着けるとい、一見男性社会だけの袴と思われていたものが進化していったものです。進化したものを活用する。それはその時代その時代をそれぞれ生き抜くために工夫をし、進化したものが活用されるのではないのでしょうか。

本日、式典のあとでの基調講演で東京広尾ロータリークラブ所属のパストガバナー 服部陽子様から「これからのロータリー」と言う演題でお話を頂きます。ロータリアンにとって、とても楽しみな内容なのではないかと思っています。

本日ここにご出席していただいた皆様にとって実のあるインターシティ・ミーティングとなるよう、精一杯のおもてなしを、アットホーム感一杯の名古屋城北ロータリークラブがしっかりとホストとして勤めたいと思っています。

それでは只今よりここに2023-24年度国際ロータリー第2760地区東尾張分区インターシティ・ミーティングを開会致します。

歓迎のことば



ホストクラブ会長 山田 恭敬様

皆さんこんにちは。今回ホストクラブを務めさせていただきます、名古屋城北ロータリークラブ 会長の山田でございます。

本日は東尾張分区津坂ガバナー補佐の指導の下、東尾張分区インターシティ・ミーティングを開催するにあたり、酒井ガバナーはじめパストガバナーの皆様並びに歴代ガバナー補佐の皆様、そして分区内各クラブの皆様に於かれましては、多数のご参加をいただき誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

さて、本日は国際ロータリー第2750地区パストガバナーでいらっしゃいます、東京広尾ロータリークラブの服部陽子様に基づ調講演をいただきます。服部パストガバナーは、国内のみならずRIIにおいても大変ご活躍され、ご多忙中にも拘らず本日のIM基調講演をお引き受け頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

本日のIMのテーマは「温故知新」です。そして服部パストガバナーの演題は「これからのロータリー」です。解りやすい言葉の中に、これからのロータリアンのあり方をも問う深い意味を持ったテーマだと考えます。基調講演の中より、多くのことを学ばせて頂く気持ちでこの場に臨みたいと思います。

IMは近隣クラブ間並びに会員相互の情報交換と親睦を目的とします。

私たち名古屋城北ロータリークラブ一同はホストクラブとして、本日ここにご参集の皆様が少しでもその目的達成に近づけるようお手伝いをさせていただきます。

設営・運営につきましては不手際、失礼があろうかとは思いますが、ロータリーの友情に免じてお許し頂ければと思います。

最後に、本日ご来会頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

東尾張分区ガバナー補佐挨拶



東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英様

酒井ガバナーをはじめ特別出席者の来賓の方々、そして東尾張分区全クラブのロータリアンの皆様、本日はお忙しい中、東尾張分区インターシティ・ミーティングIMにご出席いただき感謝致します。今回のIMテーマは「温故知新」、サブテーマは「原点を見つめ未来に羽ばたく」としました。

私にとっての原点は、ロータリー章典の中にあります。1923年の社会奉仕に関する声明がそれであり、100年前に生きたロータリアン達の、ロータリーを立派な組織にしたいと言う熱意がそこに息づいています。

その中に二つの標語が掲げられています。ひとつが“Service Above Self”いわゆる「超我の奉仕」。

もうひとつが“One profits most who serves best.”この訳文は「最もよく奉仕する者最も多く報われる」です。皆さんが特に馴染みある標語ではないでしょうか。

でもこの訳文は原文を忠実に翻訳してはいません。Profits は利益を得る、恩恵を得るという意味であり、これを受け身の表現で「報われる」と意識しています。他国の文化をそのまま受け入れるのではなく日本人の心情に沿うように、原文とは異なる表現にしたことで日本のロータリアンの心を捉えました。ここにロータリーの様々な変化に対応すべきヒントが隠されています。

意識された標語はこう訴えています。恩恵を得ることを求めず、先んじて奉仕を、良きことを率先して行動しなさい、そうすれば自分自身にも何等かの形で恩恵が後からやってきますよと、そう訴えています。変化に迷い戸惑いがあるときはまずこの原点に立ち戻り、自身の方向性を確認すべきではないでしょうか。

ただし原点はしっかりと心に留めながらも、未来に目を向け行動し続けなければなりません。その趣旨のもと、本日は第2750地区服部陽子パストガバナーに「これからのロータリー」と題して基調講演をしていただきます。皆様にとって有意義な時をお過ごしいただけるよう祈念しています。

そしてもうひとつ私には原点、原則があります。それはロータリーを楽しむことです。本日は我が名古屋城

北ロータリークラブ全メンバーが誠心誠意の精神で、皆様をお迎えしています。今回のインターシティ・ミーティングを存分にお楽しみ頂ければと、切に願っております。

ガバナー挨拶



国際ロータリー第2760地区ガバナー 酒井法文様

2023-24年度国際ロータリー第2760地区東尾張分区インターシティ・ミーティングが、津坂守英ガバナー補佐の指導のもと、この様に盛大に開催されます事、心よりお祝い申し上げます。

東尾張分区12クラブ418名の会員(2023年12月末時点)がクラブの枠を超え都市間交流という形で集えること、重ね重ねのお祝いと、津坂ガバナー補佐のご尽力に対し感謝申し上げます。

本年度、国際ロータリー会長、ゴードンR. マッキナリー氏は「世界に希望を生み出そう」のテーマを掲げ、地区方針では「培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ！！」とさせていただきます。

コロナ禍での3年間、我々を取り巻く環境や文化が大きく様変わりしてしまいました。決して我々が望んだ姿ではありません。コロナが5類に移行し、人と人との関わりの制限が解除された今だからこそ、ロータリーを見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

どのクラブも「クラブの活性化」に苦慮していると伺っています。活性化に近道はないかも知れませんが、まずは人と人との関わりが大切ではないのでしょうか、その一つの機会がこのIMであると考え、多くの会員が集い、意義あるIMである事を願う次第です。

常々、ロータリーの形、組織とは何なのかと考えると、波紋の様なものではないかと思えます。

石を池に投げると落ちた地点から波紋が広がっていきます。まさしくこの広がりがロータリーではないかと思えます。その波紋の中心がロータリー会員ひとり一人なのです。波紋がクラブ、分区、地区、世界と広がっていくのです。大きな力が働けば大きな波紋となり、小さな力では大きな波紋にはなりません。先ほどの活性化させるという事は、クラブが主体ではなく、ロータリー会

員ひとり一人にかかっているという事ではないでしょうか。是非とも、このIMが会員ひとり一人にとって有意義な時間となることを期待させていただきます。

最後にこのIMのホストを務めていただいた名古屋城北ロータリークラブの皆様に感謝申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

次期東尾張分区ガバナー補佐挨拶



次期東尾張分区ガバナー補佐 日野 典子様

2024-25年度の東尾張分区のガバナー補佐を務めさせていただきます愛知長久手ロータリークラブの日野典子です。

次年度のRIのテーマはロータリーのマジックです。そしてRIの会長アーチック氏は女性です。私も女性なのでとても好感が持てます。

アーチック会長は世界で地域社会でそして自分自身の為に持続可能でより良い変化を生むために人々が手を取り合って行動する世界を目指します。

この意味はロータリーが今まで培った素晴らしい100年を次の100年に向けて持続可能で成長していくべき姿を示している言葉です。

そうするとDEIで会員増強を進めて行かなくてはなりません。

DEIは多様性・公平性・インクルージョンです。今こそロータリーの会員に相応しい方だけで無くしていろんな方を寛容に迎えましょう。

今までの古い慣習を少しずつ変えても行きたいと思います。それを皆さんで進めて行くと必ずその向こうに新しいロータリークラブが見えてくるのではないのでしょうか。

そんな姿に変化して行ける2760地区にしたいです。

そこには皆さんの協力が必須です。この1年頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

次期ホストクラブ会長挨拶



愛知長久手ロータリークラブ会長 伊藤 広治様

皆さんこんにちは。次年度のインターシティ・ミーティングをホストさせていただきます愛知長久手ロータリークラブ今年度会長の伊藤と申します。2024-25年度IMの実行委員長でもあります。

本日は津坂ガバナー補佐をはじめ山田会長、そして竹内実行委員長と共に名古屋城北クラブがかくも盛大にこのインターシティ・ミーティングを開催され、こうして12RCの皆様方とお会いできることに感謝申し上げます。

我々愛知長久手ロータリークラブも次年度に向け今年度のインターシティ・ミーティングを観察し学び次年度に繋げようと緊張した面持ちで参加させていただいております。

このインターシティ・ミーティングのテーマ「温故知新」は私も座右の銘とさせて頂くほど大切な言葉であります。全てが新しく目まぐるしく変化していく昨今、ロータリーも変革の時期を迎え時代の流れに合わせて試行錯誤を繰り返していますが、歴史を振り返り本質を確認しなければ唯々流されて失ってしまうことが増えていきます。

この会場にも私が20年前に入会した当時にお世話になった先輩の変わらないお姿をはじめとお見掛けする若々しく活力ある会員のお顔を多数拝見することができます。

このロータリーという同じ理念を持った東尾張分区という地域の繋がりと親睦が変わらず紡がれていくことをこのインターシティ・ミーティングで感じることができます。

これからのプログラム、名古屋城北ロータリークラブらしい明るく楽しい時間を過ごさせていただけると思いき楽しみにしております。

閉会のことば IM実行委員長 竹内 淑江様

式典の閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

本日お集りの皆様、そして各クラブの事務局の皆様、

ホテルスタッフの皆様のお力をお借りいたしまして2023-24年度国際ロータリー第2760地区東尾張分区インターシティ・ミーティング式典を滞りなく終了することが出来ました。誠にありがとうございました。

次年度のホストクラブ、愛知長久手ロータリークラブ様にバトンをしっかりとお渡しさせていただきます。

引き続きまして基調講演・懇親会へと移らせて頂きます。基調講演では「これからのロータリー」について、服部陽子様よりお話を伺います。現在、そして今後のロータリーの進化と共に私たちが今出来る事を改めて確かめていきたいと思っています。

これを持ちまして2023-24年度国際ロータリー第2760地区東尾張分区インターシティ・ミーティング式典を閉会いたします。ありがとうございました。



出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
48名	48名	0名	100%

ニコボックス

○本日の東尾張分区 IM

津坂ガバナー補佐をはじめ各クラブの皆様、お世話になります。楽しみにしております。

富田 清孝、波多野 智章、木本 寛、三輪 慎一郎君

○国際ロータリー第2760地区

2023-24年度 東尾張分区IM

本日、よろしく願い致します。

岩井 正彦、古田 嘉且、富永 典夫、杉浦 賢二、堀尾 庄一、沢田 昌久、片平 博己、岩田 静夫

長瀬 晴義、南村 朋幸、波多野 智章、中村 耕司
尾関 育良、永田 広光、岩田 進市、近藤 道麿
伊藤 かね子、田中 健、林 庸介 各君

記念講演
講師

「これからのロータリー」



国際ロータリー第2750地区 2018-19年度ガバナー
服部 陽子様

ちょうど二日前の2月23日、ロータリーは119回目の誕生日を迎えました。

さて、1905年に生まれた時はたった1つであったロータリーですが、瞬間に大変な発展を遂げました。

20年後 クラブ数 約2,000
会員数 約110,000人

その発展の陰には、ポールハリスをはじめとする当時の会員がそれは熱心にロータリーの素晴らしさを語っていたということがあります。ロータリーのような素晴らしい組織はない、自分がその一員で心から満足していて、自分の周囲の人たちにもこの満足を味わってほしいと願った、それで熱心に語ったわけです。

その後もロータリーは発展を続けてきて、1990年代までは右肩上がりに会員数、クラブ数も増えていきました。日本の会員数も1996年に約13万人と大変多くなりましたし、世界はこの時120万人でした。

しかし、ここから日本の会員数は下降線をたどり始めて、現在は83,000人程になっている。世界はここからほとんど120万人台となっています。

と言っても120万人の国別のシェアは大きく変わっていて、かつては大半を占めていたアメリカ、ヨーロッパは激減し、インド、台湾、韓国と言ったアジアの国が大きく伸びています。

どんな組織も長く続いていくためには、変化を続けていかなければならないわけですが、ロータリーに於いての、特に日本のロータリーにおいての変化の速度は大変ゆっくりしているのではないかと感じます。女性会員の比率を考えてみても、例えば、オリンピックはスタートした1896年のアテネオリンピックでは女性の選手はいなかった、その後1924年のパリ大会で初めて女性が登場、前回の東京オリンピックでは、女性選手の比率は49%だったそうです。スタートして、125年で約半分は女性、日本のロータリーは100周年を迎えて3年が過ぎましたが、いまだ7%代です。

ロータリーの将来を考えるとわたしたちは今、真剣に

変化に取り組まなければならないと思います。

ポール・ハリスのことば

私は、ロータリーの草創期が始まったばかり
と考えたいと思います。今迄と同じくらい
なければならないことがたくさんあります。
万華鏡のような変化が起きています。
ロータリーはパイオニアとなり続けなければ
なりません。さもなければ進歩に取り残
されるでしょう。

ロータリアン誌 1945年2月



1945年2月のロータリアン誌ですから、第二次世界大戦が終わろうとしている頃で、世界は混沌としていた時代だったわけですが、その中であってパイオニアとなる、ロータリーはどんな時代にも変化を続けていくのだということをポールハリスはこの頃から訴えていたわけです。

津坂ガバナー補佐はインターシティ・ミーティングのテーマを、

温故知新、「原点を見つめ、未来に羽ばたく！」

原点を大事にしつつ、時代に柔軟に対応した変化を起こし、未来につなげていく。

とされています。私は、ロータリーで変化という言葉を書く時、いつも思い出すのが、自分がガバナーエレクトとして出席した国際協議会で聞いた言葉です。

When the winds of change blow, some people build walls and others build windmills.

変化の風が吹く時、防壁を立てる人もあれば、風車を作る人もある。

この言葉を聞いたとき、せつかくの風に乗って、風車を大きく回したいものだと思ったのを思い出しますが、私たちが変化の風に対して、防壁を立ててしまいたくなることはないでしょうか。それはどうしてなのでしょう？

それは、こう考えるからだと思います。

長い年月をかけて培ってきた大切なものを失いはしないだろうか？

又、変化ではなく、別ものになってしまうのではないだろうか？

だから、変化を起こすときには、まず大事なものを確認する、そしてそれを守り通す、ことが大切です。

原点を大事にするとはまさにこのことです。

そうでないと、羽ばたきが小さくなり、思い切って大きく羽ばたくことができない。

変わる事のないロータリーの原点と言ったらみなさんは何をあげられるでしょうか？

変わることはないロータリーの原点

ロータリーの標語: 超我の奉仕
最もよく奉仕する者、もっとも多く報いられる

ロータリーの目的: ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として…

4つのテスト:
言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

そして、私たちが大事にしている価値観があります。

ロータリーの中核的価値観

CORE VALUE

- ・奉仕 SERVICE
- ・親睦 FELLOWSHIP
- ・多様性 DIVERSITY
- ・高潔性 INTEGRITY
- ・リーダーシップ LEADERSHIP

今一緒に確認したものはロータリーがなくしてはならない大切なものです。

しかし、これだけでは頭で理解しても、はたして心で捉えられているのでしょうか？

私たちは、ロータリークラブの会員として、私たち一人一人がロータリー人生の中で掴んだ、これがロータリーだ、これこそがロータリーだ、というものが必ずあると思います。それを大事にし、またロータリーの外に向けてもそれを発信していくことが重要なのではないかと思います。私はRIから指名を受けて、ロータリー公共イメージコーディネーターという役目を3年間務めさせていただきましたが、最初の研修で、この質問に答えなければなりませんでした。

ロータリーは他の団体とどうちがうのか？世の中に、あまたある奉仕団体とどこがちがうのか？

みなさんはどうお答えになるのでしょうか？

私はロータリーに入会したころ、25年前になります。ロータリーの奉仕活動というのを見ていて、不思議に思ったことがあります。

それはタイの山奥の病院に医療機器を寄贈するというプロジェクトだったのですが、医療機器の贈呈式にロータリアンが何名もタイに行ってきたという写真を見せていただいた時です。

入会間もない私には、こんなに何人もの人たちが、タイまでいく航空券、ホテルの宿泊費などを考えたら、その分でもう1台の医療機器が買ってしまうのではないかと思います。なぜみんなわざわざタイまで出かけていく必要があるのか、すいぶん効率が悪い奉仕活動ではないだろうか、と不思議に思ったわけです。

しかし、行った人たちの話を聞くと、タイに行くことで現地の方たちとの交流があり、喜んでいらっしゃる方たちのお顔をみて今後も支援を続けようという気持ちが高まった。また、現地に足を運んでみて、もっと別のニーズがあることにも気づき、現地のロータリアンとも親しくなっていて、今後はそのニーズに応えるべく一緒に奉仕活

動をすることになった、というようなことがだんだんにわかってきました。

私は、これがロータリーなのだ、医療機器を現地に送って、それだけで終わる活動ではない、繋がりがあり、広がりができ、人が奉仕をつなぎ、奉仕が人をつなぐ、ロータリーの素晴らしさとはこういうことなのだ、とやっとわかったのです。

もう一つお話ししましょう。

今からお話するのは私がガバナーの時、ガバナー月信に書いた職業奉仕の話です。

私の家から歩いてすぐのところ、とても美味しい小さなパン屋さんがあります。評判を聞いて遠くから買いにくる人も増えてきたようです。私は毎朝その店のパンを食べるのを楽しみにしているのですが、夕方行くと売り切れで買えないことが多いので午前中に電話で予約してから買いに行くようにしています。

ある時、閉店の7時迄には帰宅できると思って朝の中に予約したのですが、どうしても仕事が長引き、夕方パンを取りに行くことができませんでした。

(困ったなあ！)と、次の朝、一番でパン屋さんに駆けつけると、予約の取り置き棚に私の名前の貼られたパンが一袋残っていました。

「すみません、昨日来られなくて。」と言うと、「だいじょうぶですよ。」とお店の人は笑顔で答えてくれました。そして、棚にあったパンを袋に入れるかと思っていたら、さっとそのパンを他の場所に移し、私の袋には今朝焼き立てのパンが置いてあるところから一袋取って、それを入れてくれたのです。

何の説明もなく一瞬のことだったので、私がたまたまお店の人の手元を見ていなければ、気付かなかったかもしれません。私はとても嬉しく幸せな気分になりました。お礼を言ってパンを受け取り、帰り道に考えました。残った昨日のパンはどうするのだろうか？従業員の人が食べるのか、それとも捨ててしまうのだろうか？私はなんだかとても申し訳ないことをしたように思いました。

予約した日に取りに行かなかったのは私の責任なのだから、少し味は落ちても前の日のパンを渡して当然なのにパン屋さんは新しい焼き立てのパンを渡してくれました。どうしてなのでしょう？

このパン屋さんはお客さんに最高に美味しい状態のパンを食べてもらいたいという気持ちを持って仕事をしているからなのだと思います。又、自分で納得できる品物でなければ売るわけにはいかないという自分の仕事へのプライドもあるのでしょう。

その時、私の頭に浮かんだのはロータリーの「職業奉仕」という言葉でした。このパン屋さんは職業奉仕を実践しているのだとわかったのです。世の中では、賞味期限切れの品物を誤魔化して販売したり、表示と違う類似品を売っていたりという類のニュースは後を絶ちません。お客さんにわからなければ古いものを平気で販売する店もあるし、お客さんにわからなくても黙って新しいものを販売しようという店もあるのです。

職業奉仕を実践しているこのお店のパンを、私はこれからも買い続けたいと思いました。そして、これからは予約したパンは必ずその日に買いに行かなければいけないと反省しました。

私はこのことから、日頃ロータリーで聞いていたけれどどうもつかめ切れなかった「あらゆる事業の基礎として奉仕の理念を実践する」という言葉の意味がやっと分かったような気がしたのです。そして、そういう人の集まりであるロータリーに身を置き、自分もその高みを目指していけることの有難さを感じたことでした。

今は、私の経験をお話いたしました。
みなさんもきっと、これがロータリーだというストーリーをそれぞれにお持ちだと思います。私たちが大切にしていかなければならないのは、変化を起こす時になくしてはいけない原点となるのは、そのストーリーだと思っています。


さて、それでは、いよいよ、私たちはこれからどのような変化をおこして、ロータリーを発展させていったらいいのでしょうか？

安直な、小手先の変化はその時の自己満足に終わるだけで、意味のないものに終わってしまいます。
変化を起こす時には、掲げた目標に向かって変化を起こすことが重要です。

RIは世界中のロータリアンが同じところを見つけて進める目標を示しました。
これがビジョン声明です。

ロータリーの「ビジョン声明」

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。



みなさん、暗記しましょう！
ゴードン・マッキナリーRI会長


ゴードン会長は暗記していつでもいえるようにとおっしゃっています。

このビジョン声明の達成に向けて活動していくことで、ロータリーの究極の目的である世界平和の実現につながります。

私たちは、奉仕の7つの重点分野を進めることと、豊かな心を育むことで世界平和に向けて活動していきます。

ロータリーの7つの重点分野

- 1 平和構築と紛争予防
- 2 疾病の予防と治療
- 3 水と衛生
- 4 母子の健康
- 5 基本的教育と識字率
- 6 地域社会の経済発展
- 7 環境



安全な水と飲み物があること、病気になったら治療が受けられる、読み書きが習える。人として生きていく基本的なものをみんなが持てるようにすること。これは平和の推進に欠くことのできない重要なものです。
だから私たちは7つの重点分野の奉仕活動を行っています。世界中の人が皆笑顔になるためには、これらの重点分野のことが満たされるのはまず必要なわけ

です。
しかし、それだけでは十分かということ、そうではありません。これにプラスして、豊かな人間の心を育むことがあってはじめて世界平和の実現につながるのだと思います。

自分が一番になりたい、自分が、自分が、ということでは、いくら衣食は足りても世界の争いは絶えません。命を尊いとおもう気持ち、人の痛みがわかる心、人の幸せを願える優しい感情、困難に立ち向かう勇気、そういう心を育てること、体に水や栄養が必要なように、人の心を潤わす水や栄養も同じように必要なのです。

世界中の人が皆笑顔になる、世界平和は、この両方があることによって実現できるものだと思います。

ゴードン・マッキナリー会長はメンタルヘルスを会長強調事項にあげていらっしゃるように音楽、絵画、スポーツという文化的なものを通じて人々の心を豊かにする支援も大事です。そして、私たちロータリアンは、たった一言の思いやりのある言葉や、微笑みを投げかけることだけでも、想像以上の大きな力を持って相手の心を潤すことをいつも覚えていたいと思います。

さて、それでは、このビジョン声明を達成するにはわたしたちはどうしていったらいいのでしょうか。そこで考えられたのが、行動計画です。行動計画は4つの戦略的優先事項からなっています。

行動計画 戦略的優先事項

- 1 より大きなインパクトをもたらす
- 2 参加者の基盤を広げる
- 3 参加者の積極的なかわりを促す
- 4 適応力を高める



ビジョン声明を実現するために行動計画があるのですが、その行動計画を支えるのはロータリークラブです。

ロータリークラブが世界平和に向けて、行動計画を軸にビジョン声明を達成していけるような変化を生み出していくことが、これからのロータリーの進むべき道と言えます。

では、わたしたちはどうやってロータリーを変化させていったらいいのか？

漠然と変化、変化と言っても言うだけに終わり、何も変わっていかないと思いますので、いくつかの実行項目を基軸にクラブの変化を組み立てることが有効であると思っています。これからいくつかの基軸となる点をあげて、どのような変化が必要なのか、またその変化を起こす上でわたしたちの課題となる点は何かを考えてみたいと思います。

ロータリーにおいて、継続性をもった活動ができるようにするということ。

これは長年単年度制でやってきたロータリーにとっては大きな変化です。

クラブも地区も年次計画だけでなく、3年に亘る計画をたてましょう、これが戦略計画です。そうすることによって、なかなかクラブに単年度では達成が難しい大き

な変化を生み出すことが可能になります。

また、複数年をかけることでインパクトの大きい奉仕活動ができるようになります。この複数年の計画をもってクラブ、地区が活動するというやり方は、次年度以降RIがますます力を入れるところとなっています。

必要な変化と課題 1 継続性

変化 単年度制のロータリーにとっての「継続性」
・戦略計画 ビジョンに向けた複数年計画の立案と実施
・奉仕活動の複数年化 ⇒ インパクトのある奉仕

課題 どのように複数年間での協調を作るか
課題 継続性の中に、いかに年度の個性を出していくか

しかし、単年度制がしみついているロータリーにとって、これは口でいう程たやすいことではありません。どう前後の年度と連携がとれるようにするか、これが私たちの課題となります。前後の年度で信頼できる人間関係を作って十分に話し合い、協力し合って初めて実現できるものです。また、ロータリーは単年度制でこれまで119年間もの長きにわたって続いてきたということは、単年度制によいところもあるので、継続性をもたせてロータリーを大きく発展させる、それと同時に単年度制のよさ、それぞれの年度の個性を上手に引き出せるようにしていくこと、これが私たちの課題となります。

必要な変化と課題 2 多世代の共存

変化 多世代で構成される組織の魅力を最大限に
・人生100年時代に対応する組織
・楽しさ、奥行きのある深さをもった組織

課題 違う世代が協調するために必要な柔軟性を養う
課題 違う世代が1つの仲間になる



2つ目の変化は、ロータリークラブを多世代の組織、多世代が活躍し、交流していける仲間となれる組織にすることです。

ホルガークナークパストRI会長は、「私は、ロータリークラブのこのような世代の多様性が好きです。多世代のクラブ、これこそが理想です。」と述べていらっやいます。私もロータリーの醍醐味は、違う世代の会員が同じ立場で仲間として活動できることにあると思っています。

違う世代の会員がいる、というだけでは本当の意味の多世代クラブは実現できていません。ほんとうにひとつの仲間になれているかがキーとなります。

若い世代の会員とシニア世代の会員とでは、オンラインの例会一つとっても、意見が違うかもしれません。奉仕活動の選択も意見が割れるかもしれません。例会の時間帯や例会場の希望も違うかもしれません。

それなら、若い人は若い人だけのクラブを作りましょう！という考えがあります。新しい酒は新しい革袋に入れた方がいい。それは一つのいい解決策であり、ロータリー発展につながる大切な方向性だと考えます。しか

し、同時に、既存のクラブをどうするか。新しい革袋を作るだけでなく、世界に37,000もある古い革袋をどう活性化されたクラブにしていくかを考えることこそ、これからのロータリークラブ発展の最重要課題の一つであると思います。

それぞれの好みや考えはちがっても、そこをよく話し合い、知恵を出し合い、歩みより、一緒にやれる道を探していく、若い世代とシニア世代が手を取り合ってやっていける関係を築いていくことが重要で、これができたクラブがこれからの発展を約束されたクラブではないかと私は思っています。

先日、若いロータリアン、20代、30代の方たちとディスカッションする機会がありました。私が思うほど、違わないのかもしれないという印象を受けました。若い人は古いものより新しいものが好き、若い人は忙しくて時間がない、と思いついでいたところがありましたが、こんな意見が目立ちました。

- ◎長年の伝統を重んじながらも、今の時代に息を吐いているクラブの会員でいたい
- ◎時間を有効に使えているクラブがいい。時間が有効に使えているとわかればその時間を作りだして参加する
- ◎頭と体を使える行動人の集まりであるクラブに参加したい。頭で考えているだけのクラブではつまらない。

その通りだと思います。

先入観でバックグラウンドの違う人たちをみないというのも大切になります。

さて、最近、「LIFE SHIFT」100年時代の人生戦略（リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット）というイギリスの学者の書いた本を読みました。

人生は100年で考える時代が来た、人の寿命、健康寿命はそれだけ延びてきているというのです。

そして、ここでは人生を3ステージに分けて考えます。教育を受ける最初のステージ、仕事をする2つ目のステージ、退職後の3つ目のステージです。上がひと昔前、下がこれからの時代、退職後がずっと長くなっているのがわかります。

そうすると、これまで通りと違い、長くなった部分の使い方が重要になります。仕事の後にもう一度教育、つまりまた勉強する人もあれば、新しい仕事をスタートする人も出てくる、この退職後の使い方が様々に考えられるというわけです。

その使い方の中に推奨されていたのが社会貢献の活動と書かれており、まさにロータリーは100年時代にふさわしい場を提供できる組織なのだと思います。

長くロータリーを楽しむためにも、違う世代との上手な付き合い方が大事になります。若い世代が育ったら引退という考え方はやめていただき、長い経験があるからこそできることでクラブの役に立っていただきたいと思います。若い世代の方も奉りすぎて距離を置いてしまったりせずに、積極的に近づいていただきたいと思います。

シニア世代には若い人への100年時代のロールモデルとなっただき、若い人からは新しい情報をもらう、という関係が出来たら楽しいのではないのでしょうか。

時にはお互いに、歩みよる、理解し合う、我慢することも必要かもしれません。

多世代の会員基盤で、自分と違う世代の会員と交流が持てる場は他にそうはないと思います。企業も60代までの人であって、70代、80代の人と一緒に活動す

るというケースは極めて少ないだろうと思います。多世代の仲間作り、これこそロータリーならではの魅力であると私は信じています。

必要な変化と課題3 ラーニングの力を活用

変化 研修 (training) から ラーニングへ
・知識、情報を与えられる受け身の研修から積極的な学びへ
・コミュニケーションの中に情報収集、スキルの獲得

課題 ラーニングセンターでの学習を可能にする
課題 ファシリテータを育てる

ロータリークラブにとって、会員がロータリーをよく知るといえることが、ロータリーにしっかりと根を張り、息の長い会員になるのに大切なことであるのはいうまでもありません。それが会員維持につながりクラブの会員基盤の強化となります。この重要な研修の在り方も今、変化が促されています。今年度から RI が研修に関する名称の変更を発表していることはご存じでしょうか？

研修 (training) から ラーニングとなりました。

知識、情報を与えられる受け身の研修から積極的な学びへ、コミュニケーションの中に自ら情報収集、スキルの獲得することを目指しましょう、となりました。

ラーニングの重要性 RIからの名称変更 2023年7月1日～

研修 (トレーニング)	→	ラーニング
リーダー	→	ファシリテーター
地区研修リーダー	⇒	地区ラーニング・ファシリテーター
クラブ研修リーダー	⇒	クラブ・ラーニング・ファシリテーター
地区研修委員会	⇒	地区ラーニング委員会
クラブ研修委員会	⇒	クラブラーニング委員会

RIが推奨している学習のスタイルはこうなります。

まず、ロータリー会員がしっかりと自習をする。その機会として、マイロータリーのラーニングセンターを充実させています。ラーニングセンターでの自習で、意見交換会に出席して困らないだけの情報・知識を身に着けた上で、セミナーに臨みましょう。そして、セミナーで講師の話を聞くと学びも大きくなり、今度はそのテーマで、他の参加者と意見交換をしましょう。

そこで、気付きやインスピレーションを得ていきましょう、という流れです。真ん中の講義を聞く、というのが研修の中心で終わりがちだったこれまでのスタイルに前後を加えると考えてもいいでしょう。

例えば、会長になる方は PETS に出る前に、ラーニングセンターで「クラブ会長の基本」「クラブ会長 (中級編)」「多様性のあるクラブを築く」「元気なクラブ作りのために」というコースを修了しておきましょう、となり、クラブで新会員のセミナーやオリエンテーションを行う時にも、先輩のロータリアンからの話を聞いてもらうというだけでなく、話を聞いて、新会員の間で話し合いをする、ということが効果的な学習につながるということになります。

ここで課題となるのは何でしょうか？みなさま恐らく

お気づきのように、マイロータリーに登録さえしていないという日本のロータリーの現状です。まずマイロータリーを使えるようにする、ということが課題となります。これは行動計画の適応力を高める、という4つの優先事項につながる部分です。

もう一つの課題はファシリテータを育てることです。

Facilitator (ファシリテーター) には支援者という意味があり、上から目線で指導するというのではなく、学習しやすい環境を整える、学習しやすいように手助けするという役割になります。

話し合いを有効なものにするにはファシリテーションできる人材を増やすということが、クラブ内でも、地区内でも大事になります。この学習者中心というやり方は、最近では大学でも企業研修でも多くみられますが、ロータリーは新会員といえども、立派な社会経験やスキルを持った人たちのわけですから、ロータリーに適している方法だと思えます。

必要な変化と課題4 インターネットの活用

変化 ロータリー活動にインターネット、デジタル化の推進

課題 みんなが出来ることを増やしていく
課題 IT化を選択肢として考える



RIのお役目をいただき、外国の方たちと接していると感じることは、世界のロータリーと比べた時、日本は奉仕活動、財団への寄付、など勝っている点がたくさんあるのですが、日本が相当に、世界からかけ離れて遅れている、これは早くなんとかしなければと思う点が2つあります。

1つは女性会員の比率があまりにも低いということ。この点に関して今日は特に触れませんが、もう一つはインターネットの活用ができていないということなのです。

インターネットの活用に取り組んでいきませんか、世界のロータリーからも、時代からも取り残されていってしまうので、積極的に変化を起こさなければならないところだと思います。

課題となるのは、得意な人好きな人はいいけれど、年配の方、敬遠している方もいらっしゃるのそこをどうするか？という点があります。

得意な方が率先して、クラブのみんなができることを増やしていく、というのは一つの道ではないかと思えます。

先日、当地区の PETS があり、一人の会長エレクトがこんな話をしていました。

このクラブでは戦略計画として、3年後には海外のロータリークラブと組んで奉仕活動ができるようになる、という目的は掲げていて、1年目にはクラブの例会にオンラインで参加が可能にする、オンラインはあまりという会員にも、オンラインで入ってくる参加の方を違和感なく迎え入れるように慣れてもらう。

2年目にはクラブの例会を対面だけでなく全員がオンラインで参加して開催できるようにして、海外からの卓話者を迎えられるようにする。つまりみんなが自分の PC からオンラインの例会に出席できるようにする。

そして、3年目には、海外のクラブとオンラインで繋

がって例会やミーティングを開催できるようにする、というものでした。みんなができることをひとつずつ増やしていくという方法の実践例です。

もうひとつの課題は、インターネットの活用というものをみんなが選択肢として考えられるようにする、ということがあげられると思います。どうも見ていますと、対面か？オンラインか？という二つに一つのような捉え方、どちらがいいかを検討して、ロータリーは対面でなければ、という結論を出す、あるいはコロナが終わったのだから対面に戻るのが当然だ、とか、逆にオンラインの時代だからとなんでもかんでもオンラインでやろうとする方、という傾向がみられるように思うのですが、目的と手段を考えて、上手に選択しながら使いこなしていくという知恵をロータリーは持ちたいと思います。

必要な変化と課題5 インクルーシブなクラブへ

変化 長年の意識を変えてインクルーシブなクラブを作る

- ・ロータリーは男性のクラブ
- ・会長、委員長は年配の会員
- ・新会員は何もわからない



課題 DEIを理解し、実践することがわたしたちの意識改革へつなげる

さて、5つ目、最後にあげるのは、インクルーシブなクラブへの変化です。

つまり、DEIが実現されているクラブを作っていくことになるのですが、ここで必要なのは意識の改革です。もしかすると今迄に上げてきた5つの中でこれが一番難しい変化かもしれません。人の心の中、意識を変える、というのは理屈ではなかなか割り切れないものがあります。

- ロータリーは男性のクラブ、長い間そう思って歩んできたロータリー人生。
- 会長、委員長は年配の会員でなければ恰好にならない
- 新会員は何もわからない、ロータリーのいろはがわからない若い新会員を社会経験やスキルを持った立派な会員だという目でみるのはなかなか難しい。

このような意識を変えていくのにはDEIを理解し、実践していくという課題があると思います。DEIは意識改革につながり、クラブの成長をもたらします。

DEIって？という方もいらっしゃるかと思いますが確認しておきましょう。

DEIとは？

多様性

公平さ

インクルージョン

DIVERSITY

EQUITY

INCLUSION



世界に情熱を注ぐ会

DIVERSITY 多様性ある会員基盤
(多様性)

ロータリーは、あらゆる背景をもつ人や幅広い文化、経験、アイデンティティの人を歓迎します

EQUITY 誰もが公平に大切にされる
(公平さ)

ロータリーは、クラブ会員の公平な扱いと機会の均等を保つよう努めています。

INCLUSION 誰もが受け入れられている
(インクルージョン)

ロータリーは、あらゆる人が歓迎されていると感じ、尊重され、会員として大切にされるクラブの環境づくりに力を注いでいます。

インクルーシブなクラブとは
WELCOMING 温かく迎え入れる

INCLUSIVE インクルーシブ
だれもが受け入れられていると感じるクラブ

BELONGING 帰属意識
満足できて、居心地がいい、自分らしく参加できる

インクルーシブなクラブが実現できると、参加者の基盤がひろがり、参加者の積極的な関わりが生まれ、大きなインパクトとなる奉仕活動が出来るクラブとなります。

最初にお話した行動計画を実践して、ビジョン声明の達成に向かうことができるのですから、まさに最重要課題と言えます。

インクルーシブなクラブの実現には、まず会員全員が自分にできることでクラブに参加することがなにより大切です。一人一人の力がクラブを変え、クラブの力が地域を変え、ロータリーの力が世界を変えていきます。

よくロータリークラブはオーケストラのようだと言われますが、私はこのたとえが大好きです。ロータリアンは生涯現役ですから、ロータリーに傍観者はいないのです。

新会員の方はそれでも持てる楽器を、経験の長い会員の方はそれだからこそ持てる楽器を持ってください。全員が自分の得意な楽器を持って、オーケストラの一員となり、会長の振るタクトに合わせて素晴らしいハーモニー、変化の風をおこしましょう。

本日お話したことから、みなさまのクラブにとって、今後考えていく課題のヒントがあり、クラブに持ち帰り、みなさまで話し合いをしていただく材料となりましたなら、幸いです。2760 地区、東尾張分区のロータリークラブの益々のご発展を祈念いたしまして、私の話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

ウェルカムスパークリングサービス



アトラクション

HAPPY DOWN's SHOW ダンス発表



懇親会



閉会

「手に手つないで」



会報掲示板



My ROTARYの登録はこちら

※初めての方は
アカウントを作成してください。
※アカウントがある方は
ログインをご覧ください。



**ROTARY 2760
アプリダウンロードはこちら**

写真等ございましたら会報までお知らせください。
(担当 尾関 育良)